

- 題名：生きづらさの空間
- 氏名：小田切 建太郎
- 所属：立命館大学

生きづらさを掴むというのは雲を掴むような話かもしれない。多様な生きづらさに共通の普遍の意味など取り上げるべくもない。本発表の目的は、筆者が個人的に知る不登校・ひきこもり経験者Mさんの語りから見た生きづらさにとって構成的な空間性の意味の哲学的・倫理的な解明であり、この意味を他の人びとの生きづらさの理解や共感の可能な意味の少なくともひとつとして提示することである。もしかすると、生きづらさのような事象は、心理学や社会学といった分野の対象であると見なされる傾向もあるのかも知れないが、むしろ哲学的・倫理的な知見を参照することで、その生きづらさの諸条件を根本的に捉えることができるように思う。

具体的には以下のような手順を踏む予定である。まず1節で本発表の出発点であるMさんの語りを提示し、そこにMさんが生きづらさを感じる空間を、競走的、競技場的な空間として明確化する。さらに2節でこの空間をさらに、近代の自然科学の方法である実験の観点からより根本的に実験室的なものとして捉え直す。最後に3節では再びMさんの語りを手掛かりにして、この空間に回収されない〈生活〉の意味をある種の必然性に指摘し、実験的空間への囚われと〈生活〉からの疎外を提示する。なお、本発表の内容はすべてMさんの確認を経たものとなる。